

事務事業名	地域子育て支援センター事業(直営)	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
政策名	(Ⅲ)支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	所属G	教育・保育グループ	課長名	狩野明芳
施策名	(26)子育て支援の充実	担当者名	中林 明德	電話番号	0854-40-1044
目的	対 子どもの保護者と産み育てたい 対象 夫婦	意図	安心して子育てができる。	(内線)	2252
基本事業名	(079)子育て相談の充実	予算科目	会計 款 大事業 大事業 0 1 1 5 0 3 事業名 項目 中事業 中事業 1 0 0 5 0 5 事業名	児童福祉事業 地域子育て支援センター事業 (直営)	

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( 16 年度～ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	地域や家庭におけるより良い子育て環境をつくるために、子育てに関する相談と同世代の親子の仲間づくりを支援する場として、また子育て情報提供の拠点施設として設置するもの。 木次、三刀屋子育て支援センターの2施設について直営で事業実施している。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	28年度実績(28年度に行った主な活動)	29年度計画(29年度に計画する主な活動)			
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
ア	地域子育て支援センター設置数(直営)	箇所	2	2	2	2
イ						
ウ						
エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
	主として家庭内で保育されている就学前児童及びその保護者	ア	未就園児童数(木次、三刀屋地域)	人	169	162	156	194
		イ	未就園児童の保護者数(木次、三刀屋地域)	人	330	316	304	378
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)		
子育て中の親子同士が交流を深めたり、専門家の意見を聞くことにより、子育ての負担や悩みを解消し、ゆとりを持って子どもに対応することができるよう育児力を向上させる。	ア	サークル等参加人数(支援センター全体・延人数・保護者含む)	人	21,006	22,567	21,864	22,500	
	イ	年間延利用者数(直営)	人	13,864	13,460	14,640	15,000	
	ウ							

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)	
<主な支出> ・指導員賃金:6,074千円 ・講師謝礼(報償費):266千円 ・学習教材費(消耗品等):686千円 ・管理経費等:817千円 ・備品購入費:31千円	財源内訳	国庫支出金	千円	1,990	2,412	2,104	2,125
		県支出金	千円	2,401	2,823	2,515	2,536
		地方債	千円				
		その他	千円				
	一般財源	千円	2,641	3,101	3,255	3,036	
	事業費計(A)	千円	7,032	8,336	7,874	7,697	
	人件費	正規職員従事人数	人	8	8	6	
		延べ業務時間	時間	749	749	561	
		人件費計(B)	千円	2,912	2,932	2,225	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	9,944	11,268	10,099		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
子育て世代の意見交換、交流の場として、実施事業等も定着してきている。利用者は増加傾向にあり、育児不安等は保護者から積極的に相談されるようになった。また、合併後、居住する町を越えた利用が可能となった。	育児相談事業との連携により、より育児家庭支援の充実につながった。子育てサークルの育成にもつながっている。	子育て家庭の居場所(相談、交流、情報交換)として活用する場所があり安心して利用でき、支援の輪が広がることが更なる子育て全般の意識向上につながるかと期待されている。

事務事業名	地域子育て支援センター事業(直営)	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
-------	-------------------	-----	--------	-----	--------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合⇒			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由	子育てで家庭の状況やニーズを踏まえた上で、対象者が利用しやすい環境をつくる必要がある。	
C 効率性	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？			
	<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由	市が実施する子育ての悩みや不安を持つ保護者へ対応する主要な事業がなくなり、安心して子育てしやすい環境とは言えなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？			
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	(具体的な手段や類似事業名)	育児相談事業との連携	
<input type="checkbox"/> 他に手段がない	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由	合併後、居住する町を越えた利用もあるが、利用者のニーズ等踏まえ、各地域に子育て支援の拠点となる施設は必要である。また、市の事業として保健師が実施している育児相談とも連携している。	
D 公平性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)			
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	事業の成果水準を保ちながら、事業費の削減は困難。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	既に正規職員以外で対応している。また開設時間も今以上の要望があり削減の余地が見込めない。	
評価 の 総 括	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由	小学校就学前の子育て家庭の保護者と子どもと一緒に利用することができ、住所に関係なく市全体で5箇所ある子育て支援センターのどこでも利用できる。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会環境、就業形態の変化に伴う保護者の育児負担を軽減する取り組みを実施する。</li> <li>・他事業との連携により、児童虐待防止や育児不安の解消などに繋げる。</li> </ul>																								